

1. 背景

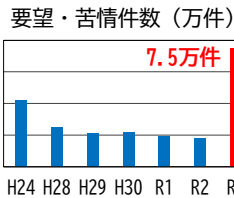
記録的な大雪

- ◆ 統計開始以来最多となる24時間降雪量を2度記録（12月18日、2月6日）
- ◆ 警報を伴う3度のまとまった降雪（1/12～14、2/6、2/21～23）



生活への影響

- ◆ 道路渋滞が多発
- ◆ 鉄道・路線バス等の運休が多発
- ◆ 家庭ごみ収集の遅れが発生



➤ 札幌市雪害対策連絡会議を開催し、緊急対策を実施

2. 各機関の検証

北海道防災会議における検証

- ◆ 検証チームの設置により、大雪対応の検証と今後の対策を検討

【雪害対応検証チーム】
北海道雪害対策連絡部構成機関
+札幌市、北海道エアポート等

【主な検証項目】
○輸送障害対策
○道路除排雪対策
○気象情報等の利活用
○雪害発生時の応急活動・体制
○情報発信・共有
○応援・受援

6月8日
最終報告
共有
JR北海道
の検証

6月9日
北海道防災会議にて報告

札幌市における検証

- ◆ 検討会議の設置により、大雪対応の検証と今後の対策を検討

【札幌市大雪対応検討会議】
建設局雪対策室、代表区、危機管理局

【主な検証項目】
○令和3年度冬期の状況
○除雪等の対応
○緊急対応の検証と今後の方向性
○令和4年度以降の対策のまとめ

協議
◆ 北海道開発局、北海道など
◆ 除雪事業協会、災害防止協力会など

8月25日
市長記者会見にて報告、ホームページに公開

大雪時の除排雪対策のポイント

- ① 排雪作業の前倒しと強化
- ② 雪堆積場の増強
- ③ 市民・企業との協働の取組み

3. 主な修正内容

修正ポイント 雪害を防ぐための各種予防対策を構築し、除排雪・雪害対応を迅速に行うために本部体制を強化

予防対策

道路除排雪体制の整備

- ◆ 指針の整備
 - ・気象予報や積雪深、排雪作業の進捗状況等に応じた行動計画である「大雪時の対応指針」の改定
- ◆ 市民と行政との協働の推進
 - ・大雪時に生じるリスクや市民が取るべき行動について、「広報誌」や「ホームページ」により啓発

施設等の整備

- ◆ 雪堆積場・融雪施設の整備
 - ・排雪に利用しやすい雪堆積場や融雪施設の整備
 - ・緊急用の雪堆積場候補地に係る検討
- ◆ 除雪機械の整備
 - ・大雪に備え、必要となる除雪機械の整備

主な関係機関との協力体制の形成

- ◆ 北海道雪害対策連絡部との連携
 - ・急な大雪に備えた北海道雪害対策連絡部との情報共有体制の構築
- ◆ 自衛隊との連携
 - ・災害発生前から、自衛隊との緊密な情報共有体制の構築
- ◆ 道路管理者間の連携
 - ・降雪期前から、各道路管理者と除雪計画や応援体制等の情報共有
- ◆ 各交通事業者との連携
 - ・大雪に備えた情報共有体制の構築や優先除雪路線の検討

応急対策

大雪・雪害時の本部体制

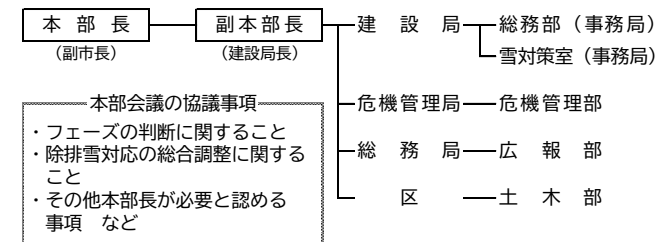
大雪・雪害の状況に応じて、以下の本部を設置し、迅速かつ円滑な応急対策を実施

- ◆ 積雪深や気象状況、排雪状況等の大雪時の局面（フェーズ）に応じた除排雪対策を機動的に判断するため、「緊急除排雪実施本部」を設置
- ◆ 更なる大雪時には、雪害状況に応じた応急対策を組織的に行うため、「雪害対策本部」を設置

緊急除排雪実施本部

本部長
副市長
事務局
建設局総務部・雪対策室

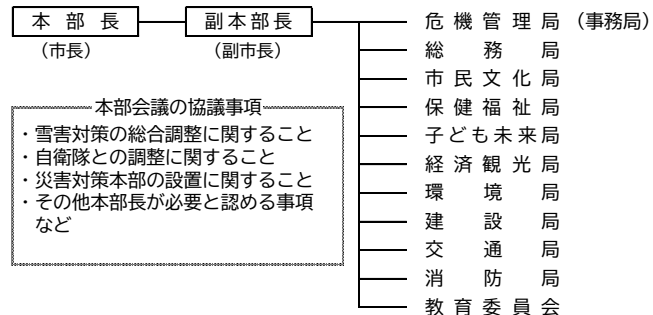
設置基準
雪害の防止又は解消に向けて道路除排雪作業が必要になった場合



雪害対策本部

本部長
市長
事務局
危機管理局

設置基準
市民生活への甚大な影響や被害が発生し又は発生するおそれがある場合にあって、緊急除排雪実施本部の関係部局に留まらない組織的な応急対策が必要な場合



※豪雪等の災害時や気象特別警報発表時には、「災害対策本部」を設置し、総合的な応急対策を実施

関係機関との連携・協力

- ◆ 北海道雪害対策連絡部への参加等による継続的な情報共有
- ◆ 自衛隊災害派遣の検討に際して、北海道と情報共有を強化
- ◆ 応援協定に基づき、関係機関に応援を要請
《新たに締結した協定》
R4. 8. 2 北海道開発局との協定、 R4. 12 陸上自衛隊第18普通科連隊との協定（予定）

